

平成27年度学校自己評価表(年度当初)

中長期目標 (学校ビジョン)	教育目標にある5つの資質・能力及び態度を養う
	(1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心

今年度の重点目標	1 学力の向上と進路志望の実現 (1)授業規律の確立 (2)分かる授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫 (3)低学年における適切な進路目標の設定 (4)最終学年における進路目標の実現 2 自主性と自律心の発揚 (1)基本的な生活習慣の確立 (2)部活動への積極的参加 (3)生徒会活動への積極的参加 (4)学校行事への積極的参加 3 地域に貢献する人材の育成 (1)「地域探究の時間」の充実 (2)「地域創造ハイスクールサミット」の成功 (3)ボランティア活動への積極的参加
----------	--

評価基準 A:概ね達成 (80%程度以上) B:変化の兆し (60%程度) C:まだ不十分 (40%程度) D:方策の見直し (30%以下)

評価項目	具体項目	目指す姿	年 度 当 初		評 価 結 果	
			現状	具体的方策	経過・達成状況	評価
学力向上と進路志望の実現	授業規律の確立	授業規律が確立されており「どの生徒も真剣に授業に取り組んでいる教室」が実現している。 ＜指標＞アンケート「授業に集中して取り組んでいる」の評価A及びBが80%以上	・昨年度は、一部の生徒で授業に集中できない状況があったので、今年度は学校を挙げて授業改革に取り組んでいる。	・生徒に「チャイム席」を促すよう、教員自ら5分前行動につとめ、チャイムと同時に授業を開始することを当たり前とする。 ・教職員が、空き時間にも、可能な限り廊下、教室など校舎内を見て回る。		
	分かる授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫	授業が工夫されており、どの生徒も分かる喜びを感じ、主体的に学習に取り組んでいる。 ＜指標＞アンケート「授業に満足している」の評価A及びBが80%以上	・年5回の授業公開週間で全教員が公開授業を行っているが、参観者が少なく十分な研究の場となっていない。今年度は学校を挙げて授業研究を充実しようとしている。	・公開授業に関する情報の提供を徹底し、期間中最低1回は参観を行う。同時間に授業中であっても短時間でもいいので授業の様子を参観してみるようにする。		
	低学年における適切な進路目標の設定	低学年(1・2年生)において、適切な目標が設定されており、努力して目標を達成しようとしている。 ＜指標＞アンケート「明確な進路目標を持っている」評価A及びBが80%以上	・明確な進路目標を持っている生徒の割合が低く、低学年段階での国公立大学志望者数が少ない。また進路実現のために努力を必要とする適切な目標設定となっていない。	・1年生は、鳥根大学オープンキャンパスやキャリア探究の時間、2年生は、地域探究の時間やキャリア探究の時間を通して、自己の進路を形成させる。 ・生徒・保護者に対し、必要に応じた個別面談、PTA懇談等を通して適切な情報提供をし、進路目標を決定していく。		
	最終学年における進路目標の実現	どの生徒も努力した結果として進路目標が実現している。 ＜指標＞国公立大10%、私立大20%、就職内定率100%	・国公立大学の合格者数、大学進学者総数ともに減少傾向である。 ・4年制大学、短期大学、医療系専門学校の進学希望者が65%、その他の専門学校進学希望者が19%、就職希望者が16%である。	・面談を通して一人一人の志望を早期に確認し、具体的な学習方法や情報の入手の仕方、他の教職員との情報交換を行い、適切な目標を設定し、指導を行う。		
自主性と自律心の発揚	基本的な生活習慣の確立	生徒の基本的な生活習慣が確立されており、学校全体が落ち着いている。 ＜指標＞問題行動発生件数が前年度より減少している	・昨年は、服装の指導や問題行動に対する指導を行う場面が多かった。今年度は基本的な生活習慣の確立に向けて学校を挙げて取組もうとしている。	・5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。		
	部活動への積極的参加	どの生徒も部活動に積極的に参加し、人間力を向上させている。 ＜指標＞部活動加入率100%、個人団体合わせて県大会優勝5以上、全国大会入賞3以上	・部活動加入率＝1年100%、2年約97%、3年95%。 ・県大会優勝＝団体(4)個人(のべ41人) ・全国大会入賞＝団体(2)個人(1人) ・中国大会・近畿大会出場(レスリング・陸上・男子ソフトボール・山岳・水球・水泳・囲碁・音楽・美術・書道) ・全国大会出場(レスリング・陸上・水球・水泳・山岳・新聞・美術)	・定期的に部活動加入状況をチェックし、未加入者への声かけをする。(総体明け・夏休み明け・新人戦明け) ・生徒会執行部と連携し、あいさつ運動等に、部活動単位で参加させ、「人間力の向上」を目指す。		
	生徒会活動への積極的参加	どの生徒も生徒会活動に積極的に参加し、人間力を向上させている。 ＜指標＞生徒会執行部や応援団などリーダーの活動が活発である。委員会活動が活発でどの生徒も積極的に取り組んでいる。育英祭が成功し評価も良好である。	・生徒会執行部は「北栄町高校生議会」を開催するなど積極的に取組んだ。応援団は応援歌練習、壮行会でのリーダーシップを発揮した。 ・委員会活動は各委員が目標を立て実践している。執行部との連携もとれつつある。 ・育英祭はリーダーと一般生徒との取り組みの差がある。	・昨年度の高校生議事を発展させ、取り組めるものを具体化して提案できるようにする。 ・各委員会と連携し、自治活動を活性化させる。 ・育英祭の企画運営に実行委員以外の生徒の意見を取り入れる。全校参加企画を増やしたり、生徒が関わられるよう計画する。		
	学校行事への積極的参加	どの生徒も学校行事に主体的に取り組む、人間力を向上させている。 ＜指標＞アンケート「学校行事が充実している」評価A及びBが85%以上	・各行事ともおおむね充実しているが、主体的に取り組めていない生徒もいる。	・各行事の意義を生徒に理解させ、役割や係の仕事を果たさせることで主体的な取り組みとなるよう工夫する。		
地域に貢献する人材の育成	「地域探究の時間」の充実	2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取組み、地域に対する関心が高まっている。 ＜指標＞「地域探究ノート」が活用され、どの班も意見発表することが出来た	・昨年は「北栄町高校生議会」「豊田庭園野点」などに取組んだ。今年度本格実施に向けて「地域探究の時間実行委員会」を立ち上げ、全校で取組もうとしている。	・担当教員と講師、そして各グループの生徒が連携をとりながら取り組みをする。 ・事前事後には教職員ミーティングをする。 ・地域探究ノートを活用してまとめさせる。		
	「地域創造ハイスクールサミット」の成功	県内外の高校生が「高校生が考える地域創造」のテーマで提言し、全国へ向けて発信している。 ＜指標＞参加予定7校が質の高い提言を行い、地域の方をはじめ多くの方に興味を持ってもらうことが出来た	・隠岐島前高校、村岡高校、智頭農林高校、岩美高校、日野高校、倉吉東高校、鳥取中央青英高校の7校で「地域創造ハイスクールサミット」を実施する計画であり、現在準備中である。	・早めの準備と連携を密にして組織的に成功に向けて取り組む。 ・生徒ができる部分はできるだけ役割をあて、生徒が活躍できるサミットにする。 ・シンポジウムや生徒の交流会など充実を図る。		
	ボランティア活動への積極的参加	どの生徒もボランティア活動に積極的に参加し、人間力を高めている。 ＜指標＞どの生徒も年に1回以上ボランティアに参加する	・昨年度までは、部活動単位でボランティアに取り組む、地域からも評価していただいたが、全校生徒の取り組みとなっていない。	・活動の案内を教室や玄関先への掲示やボランティア一覧を作成し案内する。担任、部活動顧問などから呼びかける。 ・参加生徒には「ボランティア事業参加報告書」を提出させる。 ・「ボランティア事業参加者一覧」を作成し、情報を共有する。		